

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 国語科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期始め時点でひらがながほとんど定着し、簡単な音読ができる児童が多い中、一字一字拾い読みの段階の児童や半数ほどしか定着していない児童がおり、教科書等の文章を自力で読み取ることが難しい段階であること。 ・幼児期からゲームの世界や図鑑の世界にはまっていたと考えられる児童の中には、文を読み、理解することはできるのに、物語のファンタジーの世界を楽しめなかったり、登場人物の気持ちを想像することが難しかったりする傾向が見られること。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度未就学のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなが未定着の児童には、カルタ遊びやタブレットを活用した文字ゲーム等を通して、ひらがな理解につながるような個別指導を行っている。 ・簡単な絵本の読み聞かせを適宜行い、物語の世界を楽しんだり、友達と一緒に登場人物の描写から情景を想像したりする機会を多く設けている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①文字の定着を目指した個別指導と、授業での声掛けを連携させる。</p> <p>②物語の世界を楽しめるようにするために、読み聞かせや読書指導と、物語学習での劇化や動作化などに楽しんで取り組めるようにする工夫をする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①2学期末までに、教科書の文や問題文などを一定の速度で正しく読めるようになったか。</p> <p>②10月～11月にかけての単元「くじらぐも」の学習において、くじらぐもに乗って町を飛んだときの気持ちを想像して表現することができるようになったか。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①文字の定着を目指した個別指導と、授業での声掛けを連携させる。</p> <p>②物語の世界を楽しめるようにするために、読み聞かせや読書指導と、物語学習での劇化や動作化などに楽しんで取り組めるようにする工夫をする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期末までに、教科書の文や問題文などを一定の速度で正しく読めるようになったか。</p> <p>②10月～11月にかけての単元「くじらぐも」の学習において、くじらぐもに乗って町を飛んだときの気持ちを想像して表現することができるようになったか。</p>
<p><方策></p> <p>①文字の定着を目指した個別指導と、授業での声掛けを連携させる。</p> <p>②物語の世界を楽しめるようにするために、読み聞かせや読書指導と、物語学習での劇化や動作化などに楽しんで取り組めるようにする工夫をする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期末までに、教科書の文や問題文などを一定の速度で正しく読めるようになったか。</p> <p>②10月～11月にかけての単元「くじらぐも」の学習において、くじらぐもに乗って町を飛んだときの気持ちを想像して表現することができるようになったか。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの児童は平仮名、片仮名、既習の漢字をスムーズに読み書きできるようになった。 ・くじらぐもの学習では、ワークシートの吹き出しに登場人物の気持ちを想像して書くことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の中にはまだ平仮名をスムーズに読んだり、文字のかたまりを言葉として読み取ったりすることが難しい児童がいること。 ・姿勢や書字が崩れがちなこと。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の力の差が大きいため、一斉授業の中での個別支援をどう進めていくか。1時間1時間の授業の中で何を学ばせるのかをしっかりと計画する。 ・書字の際には姿勢、鉛筆の持ち方や丁寧に書くことなどを、丁寧に注意していく。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な本を自分の力で読み取れ、内容を理解し、想像しながら楽しめるようになること。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 算数科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉や文字の定着が曖昧な児童の中には、数と言葉のマッチングが難しく、「13」が「じゅうさん」なのか「さんじゅう」なのかなかなか分からないなどの混乱が見られること。 ・全体的に、数を2とびで数えたり、5とびで数えたりするなどの、抽象的な数操作に苦手感が見られること。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度未就学のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室に数の表を常掲し、学習の中で指し示しながら繰り返し数を唱えさせている。 ・抽象と具体を行き来しながらの学習を繰り返し、具体物での理解を抽象的な表現とマッチングできるようにし、抽象的な思考や表現に慣れさせている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;"> <p><方策></p> <p>①数の概念や名称, 表記を定着させるために, 掲示と声掛けの工夫をする。</p> <p>②抽象的な数の表現を理解できるようにするために, 児童の活動の工夫をする。</p> </td> <td style="width: 50%; padding-left: 10px;"> <p><検証方法></p> <p>①2学期末までに, 100までの2位数を正しく読んだり書いたりできるようになったか。</p> <p>②2学期末までに, 既習の数範囲において, 数直線での数の順列の表記と大小比較が正しくできるようになったか。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①数の概念や名称, 表記を定着させるために, 掲示と声掛けの工夫をする。</p> <p>②抽象的な数の表現を理解できるようにするために, 児童の活動の工夫をする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期末までに, 100までの2位数を正しく読んだり書いたりできるようになったか。</p> <p>②2学期末までに, 既習の数範囲において, 数直線での数の順列の表記と大小比較が正しくできるようになったか。</p>
<p><方策></p> <p>①数の概念や名称, 表記を定着させるために, 掲示と声掛けの工夫をする。</p> <p>②抽象的な数の表現を理解できるようにするために, 児童の活動の工夫をする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期末までに, 100までの2位数を正しく読んだり書いたりできるようになったか。</p> <p>②2学期末までに, 既習の数範囲において, 数直線での数の順列の表記と大小比較が正しくできるようになったか。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・数の読み方, 時計の読み方などについて生活の中で意識して使ったり, 毎日ゲーム的に取り組ませたりした結果, 概ね定着した。 ・基本的なたし算ひき算については, 時間はかかるが, 概ね解くことができるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章題を自分の力で読み解くことが難しい児童がいること。 ・20から100までの数の大小や順序について, まだ曖昧な児童がいること。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度理解できていても時間が経つと忘れてしまうことが多いので, 既習の事項を使った学習を始める際には, 丁寧に既習事項を思い出す時間をとる。 ・文章題を自分で読み取ることができない児童には, 個別に問題文のみ読み上げるなどの支援を行う際に, 個別の時間や場所を確保するなどの注意をする。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数や形, 量などの感覚を身に付け, 何を問われているのかを想像しながら考えることができるようになること。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 生活科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に保護者や島の大人がそばにすることが多く、子供だけの関わりや、自分たちだけで何かに取り組んだり挑戦したりする経験が少ない児童が多いこと。 ・子供たちがやってみたいと思う活動や体験を実際にやらせることが難しいものがあること。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度未就学のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科の授業の中でも、子供同士で考えたり解決したり試行錯誤したりする活動を重視して、友達に目を向けたら、自分自身を客観的に見つめられるようにしたりすることで、自立を支援していくようにしている。 ・母島の環境では難しい活動（哺乳類を飼う、秋や冬で遊ぶ、など）や、児童数が少ないことにより成果が上がりにくい活動（多様な意見を比較する、集団遊びをする、など）では、単元、教材、取り組み方などを工夫し、母島の環境下でも、少人数でもねらいを達成できるように工夫している。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①学校探検や生き物を飼う計画を子供たち主体で話し合わせると共に、学年日より等を通して保護者へも趣旨を説明し、協力を得る。</p> <p>②母島にいない生き物については、哺乳類の代わりに魚類を飼う、どんぐりの代わりにギンネムの種子を使うなどの工夫をする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①2学期の生き物を育てる活動で、自分たちで考え協力しながら、世話を続けることができるようになったか。</p> <p>②2学期の活動を通して、生き物に愛情をもつことができたか。木の実や種子で工夫して遊ぶことができたか。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①学校探検や生き物を飼う計画を子供たち主体で話し合わせると共に、学年日より等を通して保護者へも趣旨を説明し、協力を得る。</p> <p>②母島にいない生き物については、哺乳類の代わりに魚類を飼う、どんぐりの代わりにギンネムの種子を使うなどの工夫をする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期の生き物を育てる活動で、自分たちで考え協力しながら、世話を続けることができるようになったか。</p> <p>②2学期の活動を通して、生き物に愛情をもつことができたか。木の実や種子で工夫して遊ぶことができたか。</p>
<p><方策></p> <p>①学校探検や生き物を飼う計画を子供たち主体で話し合わせると共に、学年日より等を通して保護者へも趣旨を説明し、協力を得る。</p> <p>②母島にいない生き物については、哺乳類の代わりに魚類を飼う、どんぐりの代わりにギンネムの種子を使うなどの工夫をする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期の生き物を育てる活動で、自分たちで考え協力しながら、世話を続けることができるようになったか。</p> <p>②2学期の活動を通して、生き物に愛情をもつことができたか。木の実や種子で工夫して遊ぶことができたか。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の中の課題や調べたいことを自分たちで見付け、解決しようという意欲をもって、取り組むことができるようになった。 ・1年間の自分たちの成長を実感することができていた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味関心や取り組みへの意欲が持続できず、すぐに飽きたり忘れたりしてしまうことが多いこと。 ・学校で自立しようとしていても、家庭に戻るとつい甘えた生活を脱することができないこと。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物に関する学習では、自分たちで命を扱っているということを常に意識させ、最後まで責任をもって関わらせる。 ・自立に関する学習では、家庭に趣旨を理解してもらって協力を求め、家庭生活からも同時に働きかけてもらったり、自立を見守ってもらったりする。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活を落ち着いて振り返り、よりよい生活を送ろうという意識をもてるようになること。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 音楽科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の1学期末に実施した授業評価アンケートの音楽科では、「授業は分かりやすいか」という項目に関して、7名中6名が「はい」と答えているが、「学習の進む速さ」については、7名中2名が「遅い」と感じている。このことから、繰り返す学習だけでなく、児童が興味・関心をもてる授業展開を考えていくことで、改善が図られるとよい。「音楽科で質問すると、分かりやすく答えてくれるか」という項目に関しては全員が「はい」と答えていることから、「わかる」から「できる」につながり、理解度は上がっていると考えられる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は未就学であるため、なし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 動画を撮影して歌唱指導をすることで、自身の歌唱の課題を児童が客観的に捉えられるようにする。 器楽の演奏では、板書で示したリズムを共有したりすることで、理解を図っていく。 鍵盤ハーモニカの演奏では、視覚的に理解できるよう鍵盤に音階を貼り付けることで、運指が苦手な児童にも演奏を定着させることができるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;"> <p><方策></p> <p>①個別指導での、児童の疑問点の解消。</p> </td> <td style="width: 50%; padding-left: 10px;"> <p><検証方法></p> <p>①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容を分析。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①個別指導での、児童の疑問点の解消。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容を分析。</p>
<p><方策></p> <p>①個別指導での、児童の疑問点の解消。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容を分析。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 歌を楽しんで元気よく歌うことができる。 ド～ラあたりまでの音階を理解し、階名で歌いながら鍵盤ハーモニカや木琴鉄琴を演奏できるようになった。 3人程度のグループ内で、お互いを見ながら合わせて演奏できるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の声の高さや大きさを調節できず、音程を合わせて歌うことが難しかったり叫んでしまったりすること。 大人数の合奏では耳から入る伴奏等に演奏の速さを合わせるのが難しく、ずれていることに気付きにくいこと。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 気持ちよく叫んで歌ってしまいがちなので、声の質や大きさを調節したり、合わせたりできるよう、声をかけたり、録音して聞かせたりする。 ペアやグループでの練習を取り入れ、自分勝手に演奏するのではなく、人の音を聞いて合わせられるようにする。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 周りの音を聞いて合わせたりハーモニーを作り出したりすることを楽しめるようになること。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 図画工作科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な表現への苦手意識が強く、描いたり作ったりする対象を具体的に指示しないと制作が進まなかったり、きちんとした形にならないと納得できず、定規を使って線を引きたがったり、造形遊びを楽しめなかったりする児童が見られること。 ・対象の全体を捉え、表現することが難しく、手足のつながりがおかしかったり衣服が透けていたりする段階の児童や、描画技術が稚拙かつ雑で形の中を塗りつぶすことが難しい児童がいて、言葉の説明や手本を見せるなどの指導ではなかなか本人の納得につながらない実態であること。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度未就学のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙を破いて偶然できた形から想像したり、ローラーで自由に引いた線から想像を広げたりする、自由な表現や造形遊びを多く取り入れ、自由な表現を称賛して自信をもたせる機会を多く設けている。 ・人物像を描くときは全身が見える鏡で自分の姿を映し、部分のつながりや衣服の見え方を確認して描かせる活動をしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①自由な表現への自信を高められるような活動や評価の工夫をする。</p> <p>②人物や動物などを描く時の、全体と部分が捉えられるような指導方法の工夫をする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>① 2学期末までには、自分の表現に自信をもち、自由な表現を楽しめるようになったか。</p> <p>② 10月末に学芸会の様子を描くときに、人物を正しく捉え、表現することができたか。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①自由な表現への自信を高められるような活動や評価の工夫をする。</p> <p>②人物や動物などを描く時の、全体と部分が捉えられるような指導方法の工夫をする。</p>	<p><検証方法></p> <p>① 2学期末までには、自分の表現に自信をもち、自由な表現を楽しめるようになったか。</p> <p>② 10月末に学芸会の様子を描くときに、人物を正しく捉え、表現することができたか。</p>
<p><方策></p> <p>①自由な表現への自信を高められるような活動や評価の工夫をする。</p> <p>②人物や動物などを描く時の、全体と部分が捉えられるような指導方法の工夫をする。</p>	<p><検証方法></p> <p>① 2学期末までには、自分の表現に自信をもち、自由な表現を楽しめるようになったか。</p> <p>② 10月末に学芸会の様子を描くときに、人物を正しく捉え、表現することができたか。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗りつぶしや切り抜き、糊付けなどの技能が向上したこと。 ・人と比較することより、自分がどう表現したいかを優先し、自分の制作に自信をもち、集中して取り組めるようになったこと。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの「良さ」に満足しているが、雑さや中途半端さが目立つ作品で終わってしまうことがあること。 ・人物の体と洋服の表現がまだ曖昧（服が透けている等）な児童もいること。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由な表現は認めつつ、作業や技能に関しては、自分ができる限りの丁寧さで取り組むように注意する。 ・人物像では、鏡等を使って、人の体の様子や服、肌の見えかたに着目させながら描かせる。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に取り組み、技能を向上させながら、表現を楽しみ、お互いのよさを認め合えるようになること。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 体育科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム遊びなどで、複数のチームやグループを作ることが難しく、多様な活動や作戦、考えが出にくいこと。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度未就学のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生と合同の体育としてできるだけ人数を増やしている。 ・グループでの運動の機会をゲーム遊びだけでなく、器械運動系の遊びや、体づくり系の遊びでも取り入れ、チームでの取り組みや、協働学習の機会をできるだけ増やしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><方策></p> <p>①様々な単元、種目でチーム学習や協働学習を取り入れ、多様な考え方、取り組み方に触れられるようにしている。</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p><検証方法></p> <p>①3学期のボール蹴り遊びでは、1学年児童からも積極的に作戦を出し、話し合いながら取り組めるようになったか。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①様々な単元、種目でチーム学習や協働学習を取り入れ、多様な考え方、取り組み方に触れられるようにしている。</p>	<p><検証方法></p> <p>①3学期のボール蹴り遊びでは、1学年児童からも積極的に作戦を出し、話し合いながら取り組めるようになったか。</p>
<p><方策></p> <p>①様々な単元、種目でチーム学習や協働学習を取り入れ、多様な考え方、取り組み方に触れられるようにしている。</p>	<p><検証方法></p> <p>①3学期のボール蹴り遊びでは、1学年児童からも積極的に作戦を出し、話し合いながら取り組めるようになったか。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム的運動のルールを理解し、「こうやったらうまくいきそう。」と考えながら運動できるようになった。 ・普段ボール等にあまり触れない児童がボールに慣れ、投げる、蹴るなどの技能が向上して、ゲームを楽しめるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームでのゲームにおいて、夢中になり過ぎてまわりが見えなくなってしまうこと。 ・積極的に参加しボール等に触る児童と、引いてしまい、あまり触れない児童の差が出てしまうこと。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いてしっかり話や説明を聞かせ、ルールを理解、徹底させて取り組ませる。 ・運動技能の高さに関わらず、一人一人の良さを生かしたプレーなどで全員に活躍の機会がまわるようにする。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の技能の向上を目指しながら、友達や下級生を認め、協力しながら運動を楽しめるようになること。 			